

## 愛知県移動支援モデル事業について

高齢者の社会参加を促す環境づくりとして、運転に不安を持つ高齢者が自家用車に依存しなくても生活できるよう、高齢者の移動を支援する取り組みとして瀬戸市、半田市、日進市、北名古屋市、設楽町とともに2020年度から2022年度までの3年間、「高齢者がいきいきと輝くまちづくりモデル事業」として実施した。犬山市も少子高齢化に伴い、社会保障費の増大やマンパワーの不足が問題となっている今、今回構築する移動支援事業はあくまで“住民同士の支え合い”という形を目指し参加した。

2020年から市内の移動実態、ニーズ及び担い手の把握を目的としたアンケート調査や移動から考える地域づくり勉強会を開催し、2022年2月から実証実験を開始した。毎週木曜日午前中に、入鹿地区の利用者自宅から名鉄犬山駅付近のスーパー（キャスタロヨシズヤ）までの往復送迎を犬山市社会福祉協議会がサロン車両・ドライバーを提供し実施した。

実施実績；期間 令和4年2月から令和4年10月まで

回数 37回

延べ利用者数 154人

平均利用者数 4.16人/回

その後、社協に代わる担い手の発掘のため、民間事業者（車両販売店・葬祭業者）に打診するなど、様々な業者に働きかけを行ったが、モデル事業に直接結びつく成果は上げられなかった。

### 実証実験終了後とその後

実証実験の利用者は移動中に、地区の人たちと同じ時を一緒に過ごすことが楽しいと感じていた。この交流の機会をいい形にできないかとSCと相談したところ、地域にサロンづくりを検討することとなった。そこに空き家の貸出の話とマッチングし、11月から「えんがわ茶論（サロン）」として、月1回開催し地域の交流を行っている。現在は、地域の乳幼児連れのママさんも参加し、地域の多世代交流の場になっている。

### 今後の展望

当市の公共交通に対する施策の見直しに合わせ、協議体等を通じてもう一度地域の実情に合った施策を研究していく。